

肝心かなめの 肝臓 のはなし

12

香川大学医学部消化器・神経内科教授

正木 勉

C型慢性肝炎の最新治療

副作用少なく、ほぼ100%治療可能

C型慢性肝炎の駆除が大きく変わったのは、2014年で、邪薬を服用するかのどく経口剤の服用で治療が可能になりました。

また、2014年以降は肝硬変でも治療が可能となりました。以降、続々と新薬が出て、ウイルスのタイプ（1型、2型）を問わず腎不全患者にも投与できる薬が発売され、今では100%近くの人がC型肝炎ウイルスの駆除に成功しています。

抗ウイルス薬の選択に必要なため、ウイルスの遺伝子（HCV RNA）は量とタイプ（1型か2型か）を調べます。これらは、血液検査で簡単に判明します。

抗ウイルス薬は 2つのタンパク質を 阻害

C型肝炎ウイルスが増殖するには、ウイルスが作る3つのタンパク質が重要です。

このNS3/4A、NS5A、NS5Bと呼ばれる3つのタンパク質のうち、どれか2つを疎外するのがC型肝炎ウイルスの経口ウイルス薬なのです。

つまり、経口ウイルス薬は直接C型肝炎ウイルスに作用することによって、ウイルスを増殖

させない働きを持ちます。

医学生には、よく「C型肝炎肝炎の最新の抗ウイルス薬は、NS3/4Aをウイルスの頭、NS5Aを胸、NS5Bを両足として、このうち2つの部位を攻撃し、ウイルスを増殖させない薬である」と説明しています。（図1）。

次号は、C型肝炎ウイルス駆除後に注意すべきことをお話します。

（図1）C型肝炎ウイルス

